権利擁護推進事業　後期第3回ミニ講座　を開催しました！

平成30年12月15日（土）上越市福祉交流プラザにて
テーマ「いざという時あわてない　～医療について～
私の生き方、人生の終いかた」
講師　新潟県立看護大学　　准教授　　原等子　氏

平均寿命や健康寿命の差を縮めていく取り組みが始まっていることや老衰とはどういう状態であるのか、延命処置や重病の告知などについて、先生のこれまでの豊富な経験を交えてお話を聞くことができました。

看取る側と看取られる側の想いが、立場の違いによって異なる場合もありますが、大切な誰かと共有しておくことが重要であるとのお話にみなさんうなづかれている姿が印象的でした。

参加された方からは告知についての質問もあり、経験談をお話しされた方もいらっしゃいました。

この講座が、「終いかたを考えることは生き方を考えること」のきっかけになったのではないでしょうか。

＜参加された方の声（アンケートより）＞

「現場で従事されていたことが、お話の内容に説得力を感じました。現実にあった事例を、いろいろ話していただき、心に残りました。告知の話に納得できるものがありました。」

「看護現場での具体例に基づいた（話）講義で、とてもわかりやすく参考になりました。」

「看取る方がやりきったと思える終末期と医療従事者にしてみればやってもムダだと思う処置をする終末期。これを埋めるにはお互いの話し合いが必要。悔いなく看取るということ。」